

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年9月7日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格情報 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	8月の価格情報			9月 (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	生育及び価格の9月中旬の見通し	
		上旬	中旬	下旬			
葉菜類	キャベツ 	74.19	85 (115%)	96 (129%)	94 (127%)	74.19	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬産は、最近の曇雨天の影響で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、病害の発生もなく生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、病害の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・青森産は、8月上中旬の猛暑とその後の曇雨天により病害虫の発生が見られたが、全体の出荷に影響がないため、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、干ばつ傾向であったが、最近の適度な降雨もあり生育は順調で、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。北海道産は、天候に恵まれ品質も良いことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 ・青森産の出荷が平年並みと見込まれ、秋田産及び北海道産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在概ね平年並みに推移している価格は、平年を下回って推移する見込み。 ・長野産は、最近の低温・曇雨天の影響で生育が停滞していることに加え、病害の発生がやや見られたことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、9月の大型連休前後に増加が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 ・群馬産は、病害の発生は特段見られないものの、最近の曇雨天の影響により生育が停滞しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、最近の低温・曇雨天の影響で生育が停滞していることに加え、病害も発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、最近の曇雨天の影響により生育が停滞しており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・群馬産、栃木産及び茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・長野産は、最近の曇雨天の影響による生育の遅れに加え、病害の発生も見られたことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は大型連休前後に増加すると見込まれることから、平年並み出荷の見込み。群馬産は、最近の曇雨天などの影響から、一部のほ場で病害が見られるものの、全体的には生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・長野産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みとなっている価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。 ・北海道産は、生育期に天候に恵まれたことから、生育は順調で全般的に豊作傾向であり、最近の降雨により収穫が進まず出荷にばらつきが見られるものの、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		88.91	90 (101%)	100 (112%)	94 (106%)	88.91	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	273.33	267 (98%)	332 (121%)	293 (107%)	273.33	
		487.13	523 (107%)	635 (130%)	450 (92%)	487.13	
	はくさい 	58.82 78.06	93 (158%)	128 (164%)	91 (117%)	78.06	
		62.79 88.72	97 (154%)	131 (148%)	89 (100%)	88.72	
	ほうれんそう 	583.95	729 (125%)	867 (148%)	778 (133%)	583.95	
		670.86	730 (109%)	785 (117%)	744 (111%)	670.86	
	レタス(結球) 	158.27	152 (96%)	158 (100%)	142 (90%)	158.27	
		152.57	161 (106%)	163 (107%)	153 (100%)	152.57	
	たまねぎ 	84.85	146 (172%)	118 (139%)	106 (125%)	76.15	
		84.85	152 (179%)	131 (154%)	115 (136%)	76.15	
果菜類	きゅうり 	210.69	248 (118%)	238 (113%)	332 (158%)	210.69	
		221.71	261 (118%)	260 (117%)	327 (147%)	221.71	
	トマト(大玉) 	229.51	225 (98%)	229 (100%)	341 (149%)	229.51	
		271.33	248 (91%)	251 (93%)	320 (118%)	271.33	
	なす 	209.55	270 (129%)	231 (110%)	256 (122%)	209.55	
		221.72	320 (144%)	269 (121%)	229 (103%)	221.72	
	ピーマン 	263.58	346 (131%)	414 (157%)	367 (139%)	263.58	
		282.16	342 (121%)	370 (131%)	363 (129%)	282.16	
	根菜類	だいこん 	94.60	92 (97%)	119 (126%)	118 (125%)	94.60
			100.39	91 (91%)	118 (118%)	111 (111%)	100.39
		にんじん 	123.08	175 (142%)	145 (118%)	142 (115%)	123.08
	123.11		176 (143%)	143 (116%)	146 (119%)	123.11	

種類	8月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格			9月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	生育及び価格の9月中旬の見通し	
		上旬	中旬	下旬			
		いも類	242.66	425 (175%)			484 (199%)
	220.11	342 (155%)	321 (146%)	296 (134%)	220.11	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷量：257t ・主産地：愛媛(49)、宮崎(24)、大阪(13)、輸入(8)、奈良(4) 	
	101.61	145 (143%)	123 (121%)	112 (110%)	101.61	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷量：7,650t ・主産地：北海道(96) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、概ね天候に恵まれ生育は順調で豊作傾向となっており、収穫作業も順調に進んでいることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	101.61	158 (155%)	139 (137%)	135 (133%)	101.61	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷量：3,455t ・主産地：北海道(95) 	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
8 はくさいの平均価格は、上段が7月1~8月10日まで、下段は8月11日~10月15日までの価格である。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、7月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,353gで前年比96%、購入金額は、1,966円で同111%となった。
また、8月のキャベツの小売価格は、198円で過去5カ年平均比143%、レタスは、535円で同134%となり、キャベツ及びレタスは過去5カ年平均を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	1,755
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	1,761
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	1,939
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	2,070
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	2,257
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	2,157
7月	4,402	1,737	4,542	1,770	4,353	1,966
8月	4,315	1,731	4,275	1,846		
9月	4,688	1,844	4,745	2,035		
10月	5,191	1,902	5,455	1,973		
11月	4,990	1,700	5,291	1,704		
12月	5,146	1,927	5,233	1,977		

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)
(単位：円/kg)

月	キャベツ			レタス		
	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)	過去5カ年平均	平成27年	5カ年比(%)
1月	212	229	108	684	827	121
2月	223	202	91	631	576	91
3月	205	169	82	500	511	102
4月	243	255	105	453	555	123
5月	163	273	168	365	440	121
6月	137	188	137	317	392	124
7月	160	167	104	332	437	132
8月	138	198	143	400	535	134
9月	158			591		
10月	174			469		
11月	164			429		
12月	172			546		

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注1：過去5カ年平均は、平成22~26年の平均。
注2：平成27年8月の値は、8月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

貿易統計によると、7月の野菜の輸入量は、生鮮野菜は、前年同月比107%の7万トン、加工野菜は同96%の15万5千トン、野菜全体は、同99%の22万5千トンとなった。このうち、中国産野菜合計は同102%の12万トンとなった。
生鮮野菜は、前年を上回った一方で、加工野菜が前年を下回り、野菜全体では前年をわずかに上回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月~7月		平成27年7月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	536,596	92	70,025	107
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	1,040,014	95	154,809	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,576,610	94	224,834	99
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	787,138	95	120,207	102
中国産シェア	52		53		50		53	

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

主な野菜の輸入数量

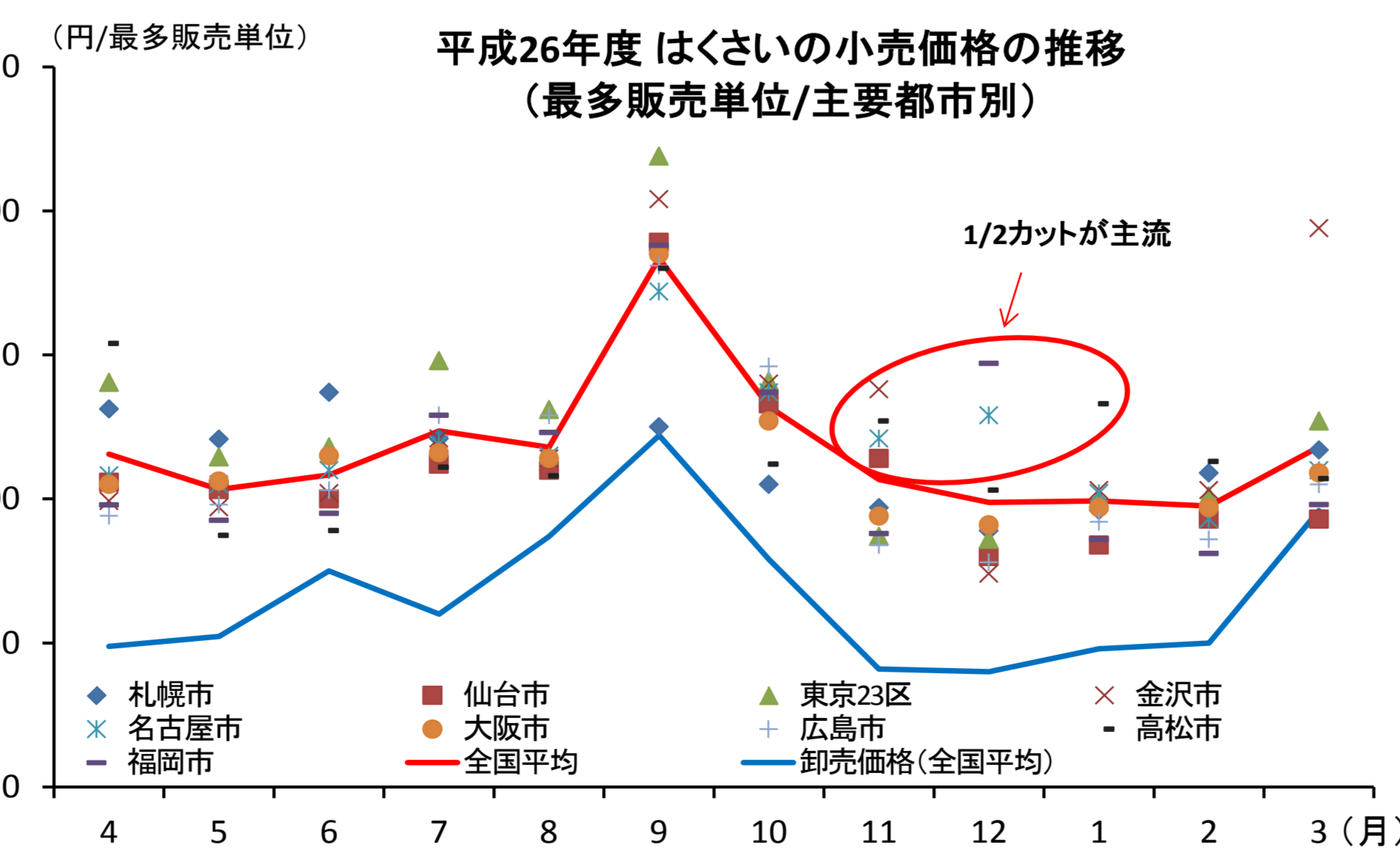
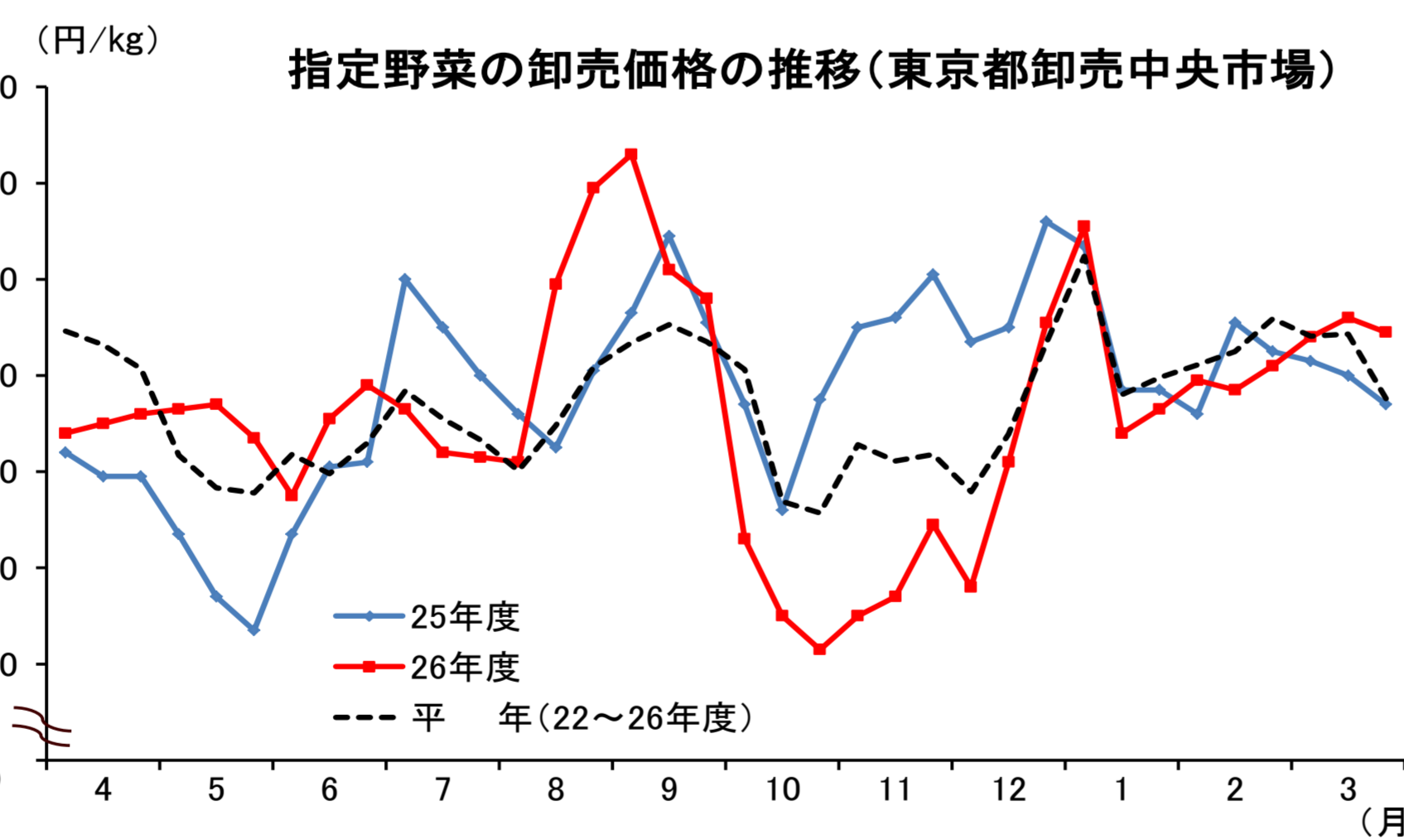
(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成26年7月(A)	平成27年7月(B)	(B)/(A)
		数量	数量	比率
たまねぎ	合計	31,107	30,982	100
	中国	29,033	27,207	94
	ニュージーランド	1,593	2,258	142
にんじん	合計	6,525	6,879	105
	中国	6,326	6,524	103
	ニュージーランド	154	310	201
ねぎ	合計	5,485	5,811	106
	中国	5,482	5,809	106

資料：農林水産省「植物防疫統計」
注1：平成27年7月は速報値。
注2：輸入数量は、検査数量である。
注3：冷凍を除く。

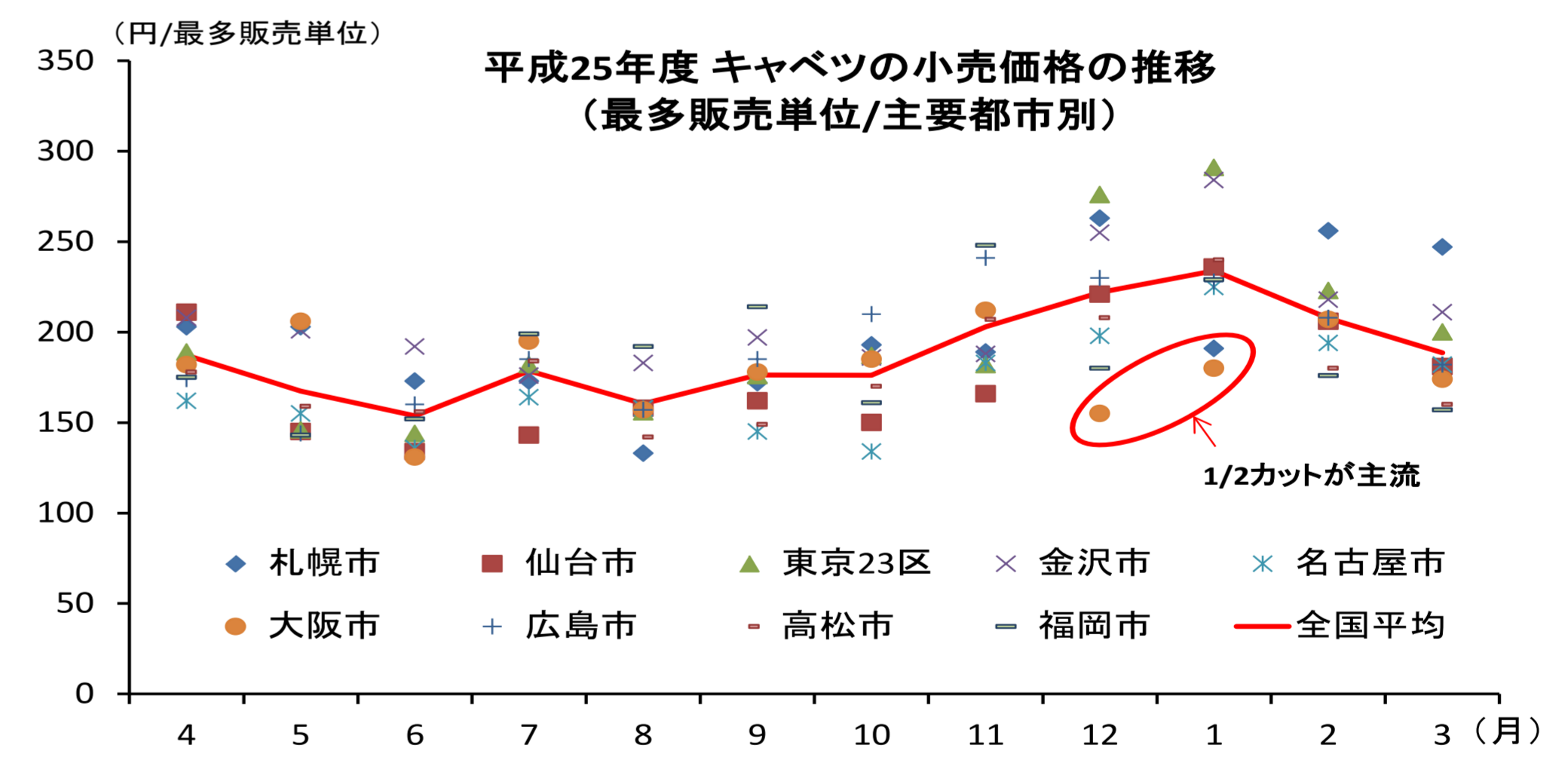
4 トピック — 量販店における野菜の品目別販売価格の動向(最多販売単位別)

量販店における野菜の販売単位(ロット)を見ると、ばら売り、袋売り、カット売りなど、品目毎に多様であり、市況変動に応じて変化することがある。当機構が実施している最多販売単位別の小売価格動向調査から、その一端を紹介する。
平成25~26年度の指定野菜(14品目)の卸売価格の動向を見ると、平成25年は夏季と秋口から年末にかけての高値、平成26年は夏季の高騰と秋口から初冬にかけての安値と、大きな変動がみられた。この市況の下で、品目別の小売価格(最多販売単位別)を見ると、例えば、キャベツは1個売りが主流であるが、卸売価格が高騰した25年12月から26年1月は、店頭で1/2カット売りが主流となった地域もみられた。
はくさいは、全国的に1/4カット売りが主流であるが、平成26年11月から平成27年2月にかけては、夏季の気象災害で生育遅延した産地と後継産地の出荷が重なって卸売価格が著しく下落したことや、冬場の鍋物需要期ということもあり、一部の地域では1/2カット売りが主流となった。
トマトは、3~4個の袋売りが全国的に主流であるが、平成25年度の月別の卸売価格と平均販売個数の動向を見ると、施設栽培が増え卸売価格が高くなる秋口や春先には、販売単位個数が減少する傾向がみられた。
このように、量販店では、気象災害等に伴う著しい卸売価格の変動や、季節毎の卸売価格水準の高低が、消費者が購入する1アイテム当たりの小売価格水準に与える影響を軽減するために、販売単位や量目を適宜変更することが行われている。今後は、市況変動への対応に加え、高齢化や核家族化が引き続き進行することもあり、重量野菜や単個の重い野菜等を中心に販売単位の変更や小口化の動きは徐々に進むとみられる。

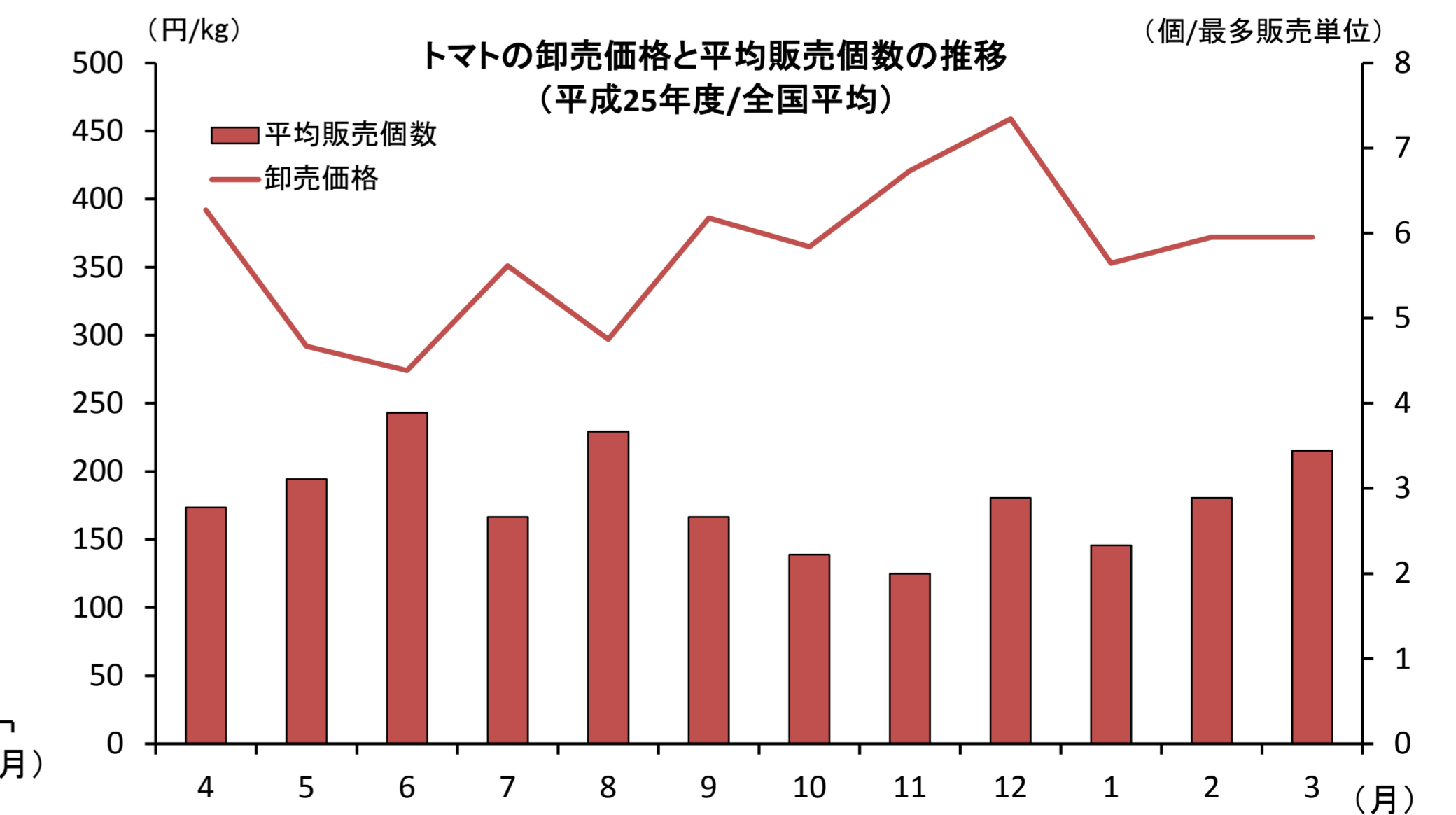


注：1/2カットが主流である地域を除き、全て1/4カットである。

資料：農畜産業振興機構「野菜小売価格動向調査」



注：1/2カットが主流の地域を除き、全て1個売りである。



注：同調査は、全国主要9都市の量販店等(1都市10店舗)で、指定野菜の最多販売単位(販売面積が一番広くとられている販売単位)の小売価格調査等である。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜供給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。